

令和6年度 江戸川区立南葛西中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

<p>学校教育目標</p>	<p>人権尊重の精神を基に国際社会に貢献できる日本人の育成 1 学びつづける人 2 思いやりのある人 3 心身の健康に努力する人</p>	<p>目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像</p> <p><学校像>・生徒の能力を高め資質の向上をめざす学校 ・入学させてよかったと保護者、地域から信頼される学校 ・教職員も資質の向上を常に心がけ、高め合い組織的に協働できる学校 <生徒像>・人権意識、思いやりの心を持ち、自己を大切にしながら他者も尊重できる生徒 ・自らの目標を定め、向上心を持ち、主体的、意欲的に学ぶ生徒 ・コミュニケーション能力を高め生活に生かせる生徒 ・地域の一員としての自覚をもち、地域を大切にす生徒。 ・南中プライドを常に胸にとどめ、規範意識のある生徒 <教師像>・生徒一人一人の理解を深め、生徒のより良い育成に使命感を持って取り組む教師 ・組織の一員としての自覚を持ちながら学校としての課題の克服に、意欲的に取り組む教師 ・教育公務員としての責任ある言動の履行を厳守し、説明責任が果たせる服務を実践する教師 ・日常の授業を大切にして、主体的に学びに向かう授業を行うための研修を励行する教師</p>
<p>前年度までの本校の現状</p>	<p>成果</p> <p>数学・英語の習熟度別少人数授業を行ったことで、生徒の学習意欲が高まった。学習用タブレット端末を効果的に授業で活用し、生徒の学習意欲を引き出すことができた。支援が必要な生徒に対する研修会を実施したことでユニバーサルデザインの視点に立った対応について、理解が深まった。関係諸機関と情報共有できたことで、効果的に支援をすることができた。</p>	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館司書と協力し、学校図書館の整備を進め、読書科の充実を図る。 SSW等と協力して不登校生徒一人一人に寄り添い、登校を促していく。 学力向上へ向けた取組を進める。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進 ○学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得 ○家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・習熟度別少人数授業（数・英・理）の実施 ・一人1台端末の授業内での効果的な活用	・2月末実施の到達度テストにおいて、昨年度以上の結果 ・毎時間授業で活用し、生徒の満足度80%以上	B		B	・習熟度別少人数授業が全国学力調査（3年）などで成果となって表れている。 ・一人1台端末はすべての教科で効果的に活用できている。	A	・生徒が意欲的に取り組むように授業改善に取り組んでもらいたい。					
		・外部委託による放課後補習教室の実施と有効な活用（数・英）	・年間150回の実施と対象生徒の学力の10%向上	A		A	・放課後補習教室への参加率も高く、生徒も意欲的に取り組んでいる。	B	・具体的な目標設定のもと取り組んでいる。続けてほしい。					
	○読書科の更なる充実	・読書科による活用…各学年5～10回 ・区立図書館職員による学校図書館整備 ・「読書科」についての情報共有及び深化	・活用率80%以上 ・年間22回実施 ・各学期1回以上 ・取組評価肯定回答80%以上	B		B	・実施時期を調整しながら活用を進めることができている。 ・司書の協力を得て整備を進めている。 ・情報の共有を進めていく予定である。	B	・デジタル化の時代ではあるが、図書館の良いところを伝え活用するように進めてほしい。					
体力の向上	○運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善	・体育の授業及び部活動における補強運動の取組 ・ロードレース大会を実施し、生徒の体力向上とスポーツに取り組む達成感や意欲を高める	・新体力テストにおいて、全学年都の平均以上の成果を出す ・ロードレース大会の完走者90%以上	A		B	・授業で補強運動を行っている。 ・現在ロードレース大会の準備を進めている。	A	・スポーツによる達成感を味わわせ、体力向上に努めてほしい。					
教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・特別支援委員会隔週1回の実施	・情報共有し、全教員で取り組む	A		B	・隔週に一回委員会を実施している。情報の共有にとどまらずどのように活用していくかが今後の課題である。	B	・共生社会の実現のために様々な取組を進めてほしい。					
不登校・いじめ対応の充実	○不登校対策の実施・充実 ○教育相談の強化 ○Ohyaer-QUの活用 ○エンカレッジルームの活用促進	・江戸川区子どもの権利条例の理解 ・生徒一人一人に寄り添い、状況把握に努めるとともに不登校対応巡回教員の活用し、SCなど外部の機関につなげる ・学級だけでなく学年や学校で情報共有して活用していく ・校内別室指導支援員を活用し、生徒の復帰を進める。	・不登校生徒に対して、週に1回程度、家庭連絡を行い、必要に応じて家庭訪問を実施する ・SC相談件数の昨年度比増加 ・研修会を実施し、活用を深める。 ・教室復帰2割を目標とする。	B		B	・不登校対応巡回教員を活用し、家庭訪問等を行うことができてきている。 ・SCの相談件数は多い。また、外部機関とつながる生徒の割合も大きくなった。 ・SSWによる研修会を実施した。	B	・不登校生徒への取組をよく行っている。様々な機関とつながって支援を行ってもらいたい。					

学校(園)の 開かれた 実現	地域社会に	○自校(園)の取組の積極的な発信 ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・すべての教員が更新できるようスキルアップを図る ・設定した公開期間に学校公開を実施する。	・1週間に1回は更新し、情報発信を行う。 ・年4回実施する。	B	B	・各教員がホームページを更新している。更新の頻度が上がっている。 ・予定通り学校公開を行っている。	A	・学校公開では生徒の成長が見られてよかった。					
		○学校関係者評価の充実 ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会で地域から見た学校の意見をまとめ、教育活動の充実・改善に取り組む。	・学校に対する満足度を80%以上とする	B	B	・予定通り委員会を行っている。	B	・委員会の開催やアンケートなど、目標に従って具体的な取組を実施している。					
教育の 特色ある 展開		○「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・定時退勤日を設定 ・SSS、副校長補佐を活用し、職員の業務軽減を図る ・部活動指導員、外部指導員の活用促進	・月に1回定時退勤日の実施 ・教員の満足度80%以上	B	B	・外部人材の活用により勤務時間の短縮にはなっているが、更なるサポートが必要である。	A	・学校でやるべきことを進めていると思う。					
		○持続可能な社会の担い手を育むため、教科等横断的な視点に立った実践の推進	・SDGsへの取組を中心とした、研修とその実践 ・グリーン活動ボランティアの充実	・生徒への取組を各学期に1回実施 ・生徒の取組を80%以上とする	C	B	・節電や残菜減に取り組んだ ・緑のカーテンとしてつる植物をグリーン活動ボランティアで育てている。	A	・目標の掲示物が校内にあり、生徒が意識を持って取り組むようにしていると思う。					